



7月幼稚園だより

令和7年7月1日
千代田区立番町幼稚園
園長 美越 英宣



(番町幼稚園HP)

“自分”と“もの”と“こと”との出会い

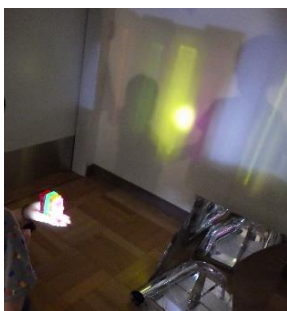
副園長 荒木 久子

4月より番町幼稚園に副園長として着任いたしました荒木久子と申します。20年前と10年前にも教員として本園に勤務しておりました。この度、本園で副園長として新たな一步を踏み出させていただく3度目のご縁に喜びと感謝をしつつ、懐かしい気持ちと、たくさんの新たな出会いの中で過ごした3か月間でした。4月に共に仲間入りをした3歳児も組の子どもたちも、すっかり幼稚園の一員としての生活が板につき、保育室や園庭で思い切り遊び、思い切り笑い、思い切り泣く全力の姿に、私たち教職員も元気と笑顔をもらう毎日です。

<とうきょうすくわくプログラム 番町ラボの活動より>

「とうきょう すくわくプログラム」は、東京都が推進する乳幼児の育ちを支援する教育・保育プログラムです。子どもたちが主体的・協働的に探究活動に取り組むことを通じて、好奇心や自己肯定感、思いやりなどの「豊かな心」を育むことを目的としています。

本園では「とうきょうすくわくプログラム」の一環として「番町ラボ」に取り組んでいます。イタリアのレッジョ・エミリア市でアトリエリストとして活動されていた津田純佳さんをお迎えしての「番町ラボ」は3年目を迎えました。6月に5歳児うめ組を対象として本年度1回目の「番町ラボ」を実施しました。事前の打ち合わせで、今のうめ組の姿や今までの経験から選択したテーマは「光」でした。そして、津田さんの助言のもと、教員が探究しながら集めた魅力的な素材が並べられ、暗幕を張り、保育室の一室がいつもと全く異なる「光」に向き合う「ラボ」となりました。



そこで、子どもたちが、鏡・ホログラムシート・懐中電灯・アクリル板・OHP・ライトテーブルなど様々な環境に自ら関わり、手に取り試し、じっくり向き合いました。映し出される「影」に関心をもつ子がいれば、反射する「光」に興味をもつ子もいます。何を使うか、どう関わるか、どう進むか自分次第、まさに、“自分”と“もの”と“こと”との出会いの場です。ラボの中で子どもたちが自分の意志で、無心に手を動かし、試して、発見して、また工夫して…。その一つひとつが、光と影の世界に新たな表情を生み出す空間の美しさと、子どもたちの目の輝きに見入るひと時でした。

これらのように、幼児期には、友達とのつながりや協同の中で育まれる力を大切にしながら、子どもがものごとと出会い、自分のペースでじっくりと向き合う時間も大切にしたいと改めて感じています。一人一人が安心して自分のペースで“自分”と“もの”と“こと”と出会い、「自分らしさ」に出会えるような時間を、本園の保育の中充実させていきたいと考えています。子どもたちも、教職員も、一人一人の個性が輝く番町幼稚園であるとともに、子どもたちのぴかっと輝き、キラリと光った場面を保護者の方と共有し、喜び合える園でありたいと願っております。



今年度からは、預かり保育拡充に伴い、子どもたちのにぎやかな声と成長が繰り広げられる夏休みを迎えます。教職員で、暑い夏をどう過ごしたら子どもたちの安心と安全を保障しながら、充実した夏季預かり保育を展開できるか様々に意見を交わしながら準備を進めているところです。暑さが日増しに厳しくなってきましたが、保護者の皆様も地域の皆様もどうかご自愛ください。